

## 第8期印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画 策定のためのアンケート調査結果【概要】

### ●調査の目的 (P2～)

本調査は、令和3年度を初年度とする「第8期印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」の策定にあたり、高齢者の方の生活実態や要望、課題等を把握する基礎資料とすることを目的に実施しました。

### ●調査概要

- 調査対象者：第1号被保険者（65歳以上の方）
- 調査期間：令和2年2月14日～令和2年2月28日
- 調査方法：郵送配布・郵送回収

| 調査名                  | 対象  | 調査対象者数<br>(配布数) | 有効回収数 | 有効回収率 |
|----------------------|---|-----------------|-------|-------|
| 介護予防・日常生活圏<br>域二-ズ調査 | 介護保険の第1号被保険者(65歳以上)のうち、要介護認定を受けていない方(無作為抽出)、要支援1又は2及び介護予防・日常生活支援総合事業対象者の方全員 | 5,911           | 3,560 | 60.2% |
| 在宅介護実態調査             | 介護保険の要介護認定者(65歳以上【要介護1から5の認定を受け、自宅に住所を有する方】)                                | 1,600           | 618   | 38.6% |

## I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

### 1. あなたご自身について (P6~)

- ・性別についてみると、「男性」が51.7%、「女性」が45.8%となっています。
- ・年齢についてみると、「65~69歳」が28.3%と割合が最も高く、次いで「70~74歳」が26.6%、「75~79歳」が18.8%となっています。
- ・居住地区についてみると、「南部」が34.6%と割合が最も高く、次いで「北部」が26.4%、「印旛」が14.0%となっています。
- ・要介護度についてみると、「認定は受けていない」が83.6%と割合が最も高く、次いで「要支援1」が6.2%、「要支援2」が6.0%となっています。

### 2. あなたのご家族や生活状況について (P10~)

- ・家族構成についてみると、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が42.5%と割合が最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が19.6%、「1人暮らし」が14.0%となっています。

→1人暮らし高齢者をはじめとする、見守り・支援の体制整備が課題です。

- ・介護・介助の必要性についてみると、「介護・介助は必要ない」が80.3%と割合が最も高く、次いで「現在、何らかの介護を受けている」が6.9%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が6.0%となっています。
- ・介護・介助が必要になった主な原因についてみると、「高齢による衰弱」が24.3%と割合が最も高く、次いで「骨折・転倒」が21.4%、「心臓病」が12.5%となっています。
- ・主な介護者についてみると、「配偶者(夫・妻)」が28.4%と割合が最も高く、次いで「娘」が27.1%、「息子」が21.9%となっています。

→介護・介助が必要な人が、適切な支援を受けられる体制づくりが必要です。  
また、「老老介護」の増加などをふまえ、介護者への支援の充実が課題です。

- ・経済的な暮らしの状況についてみると、「ふつう」が66.9%と割合が最も高く、次いで「やや苦しい」が16.6%、「ややゆとりがある」が8.3%となっています。また、「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせた『苦しい』は、21.0%となっています。
- ・住まいの形態についてみると、「持家(一戸建て)」が65.4%と割合が最も高く、次いで「持家(集合住宅)」が25.2%、「民間賃貸住宅(集合住宅)」が2.9%となっています。

→高齢者への経済的負担の軽減と相談支援が課題です。

→住み慣れた住まいで、安心して生活を継続できる支援体制づくりが課題です。

### 3. からだを動かすことについて (P17~)

- ・階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについてみると、「できるし、している」が63.9%と割合が最も高く、次いで「できるけどしていない」が16.9%、「できない」が16.3%となっています。
- ・椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについてみると、「できるし、している」が75.8%と割合が最も高く、次いで「できない」が11.5%、「できるけどしていない」が10.3%となっています。

→それぞれ、「できない」が1割を超えており、日常生活の中での運動機能維持が課題です。

- ・15分位続けて歩いているかについてみると、「できるし、している」が76.9%と割合が最も高く、次いで「できるけどしていない」が12.3%、「できない」が8.5%となっています。
- ・過去1年間に転んだ経験があるかについてみると、「ない」が68.2%と割合が最も高く、次いで「1度ある」が21.2%、「何度もある」が8.4%となっています。
- ・転倒に対する不安についてみると、「やや不安である」が30.2%と割合が最も高く、次いで「あまり不安でない」が27.7%、「不安でない」が25.7%となっています。「とても不安である」「やや不安である」を合わせた『不安である』が44.1%となっています。

→転倒防止に向けた健康づくり・介護予防の取り組みの充実が課題です。

- ・週に1回以上は外出しているかについてみると、「週5回以上」が41.0%と割合が最も高く、次いで「週2~4回」が40.4%、「週1回」が10.8%となっています。
- ・昨年と比べた外出の回数についてみると、「減っていない」が44.7%と割合が最も高く、次いで「あまり減っていない」が28.9%、「減っている」が20.1%となっています。
- ・外出を控えているかについてみると、「はい」が18.0%、「いいえ」が79.3%となっています。
- ・外出を控えている理由についてみると、「足腰などの痛み」が50.9%と割合が最も高く、次いで「交通手段がない」が21.4%、「トイレの心配（失禁など）」が18.3%となっています。

→誰もが安心して外出できる支援の充実が課題です。

- ・外出する際の移動手段についてみると、「自動車（自分で運転）」が59.4%と割合が最も高く、次いで「徒歩」が57.8%、「電車」が44.9%となっています。
- ・今後、自主的に免許の返納を考えているかについてみると、「返納は考えていない」が67.1%と割合が最も高く、次いで「わからない」が12.0%、「返納したいが返納できない」が8.7%となっています。
- ・現在、車が無くて、生活上特に困っていることや、将来、車が運転できなくなると困ると思うことについてみると、「買物」が67.1%と割合が最も高く、次いで「通院」が60.8%、「公的機関や金融機関など身近な用事」が41.9%となっています。

→地域の実情から、車で外出が多くなっており、高齢者の交通安全等への取り組みと、公共交通体制の充実が課題です。

## 4. 食べることについて (P29~)

- 身長についてみると、「160~170cm 未満」が 35.7%と割合が最も高く、次いで「150~160cm 未満」が 32.6%、「170cm 以上」が 15.1%となっています。
- 体重についてみると、「50~60kg 未満」が 30.2%と割合が最も高く、次いで「60~70kg 未満」が 29.5%、「40~50kg 未満」が 18.1%となっています。
- BMI についてみると、「18.5 以上 25 未満」が 61.2%と割合が最も高く、次いで「25 以上」が 27.6%、「18.5 未満」が 6.9%となっています。

→過度なやせ・肥満の防止に向けた取り組みを実施していくことが必要です。

- 半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについてみると、「はい」が 26.6%、「いいえ」が 71.0%となっています。
- お茶や汁物等でむせることがあるかについてみると、「はい」が 28.2%、「いいえ」が 69.7%となっています。
- 口の渇きが気になるかについてみると、「はい」が 25.6%、「いいえ」が 71.9%となっています。

→口腔の状態の改善に向けた取り組みを実施していくことが必要です。

- 定期的に歯科受診（健診を含む）をしているかについてみると、「はい」が 55.7%、「いいえ」が 41.9%となっています。

→定期的な歯科受診、歯科健診を促す取り組みが課題です。

- 歯の数と入れ歯の利用状況についてみると、「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 34.7%と割合が最も高く、次いで「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 34.5%、「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」が 17.9%となっています。

→自分の歯の維持と、適切な入れ歯の使用を促す取り組みが課題です。

- 6か月間で2~3kg 以上の体重減少があったかについてみると、「はい」が 10.9%、「いいえ」が 86.5%となっています。
- 誰かと食事をともにする機会があるかについてみると、「毎日ある」が 55.0%と割合が最も高く、次いで「月に何度かある」が 17.8%、「年に何度かある」が 10.8%となっています。

→孤食解消に向けた取り組みが課題です。

## 5. 毎日の生活について (P39~)

- ・物忘れが多いと感じるかについてみると、「はい」が42.7%、「いいえ」が54.3%となっています。
- ・自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているかについてみると、「はい」が85.1%、「いいえ」が13.1%となっています。
- ・今日が何月何日かわからない時があるかについてみると、「はい」が24.7%、「いいえ」が73.5%となっています。

→認知機能の維持とともに、地域ぐるみの認知症支援の取り組みが課題です。

- ・バスや電車を使って1人で外出しているかについてみると、「できるし、している」が80.3%、「できるけどしていない」が9.8%、「できない」が8.1%となっています。
- ・自分で食品・日用品の買物をしているかについてみると、「できるし、している」が82.1%、「できるけどしていない」が11.2%、「できない」が5.0%となっています。
- ・自分で食事の用意をしているかについてみると、「できるし、している」が65.2%、「できるけどしていない」が25.3%、「できない」が7.8%となっています。

→日常生活上の動作や行為をできる限り自立して行えるよう、サポートしていく仕組みが必要です。

- ・自分で請求書の支払いをしているかについてみると、「できるし、している」が79.6%、「できるけどしていない」が13.8%、「できない」が4.6%となっています。
- ・自分で預貯金の出し入れをしているかについてみると、「できるし、している」が81.1%、「できるけどしていない」が12.9%、「できない」が4.7%となっています。

→財産管理の支援など、高齢者の権利擁護に向けた取り組みを実施していくことが必要です。

- ・趣味はあるかについてみると、「趣味あり」が70.8%、「思いつかない」が20.6%となっています。
- ・生きがいはあるかについてみると、「生きがいあり」が59.7%、「思いつかない」が30.7%となっています。

→年齢に関わりなく誰もが気軽に参加できるメニューや機会づくりが課題です。

## 6. 地域での活動について (P49~)

- ・会・グループ等への参加状況については、全ての項目で、「参加していない」の割合が最も高くなっています。
- ・地域住民の有志の活動に参加者として参加してみたいと思うかについてみると、「参加してもよい」が47.4%と割合が最も高く、次いで「参加したくない」が32.0%、「是非参加したい」が7.4%となっています。
- ・どのような条件が合えば参加したいかについてみると、「活動内容が自分に合う」が72.5%と割合が最も高く、次いで「時間が合う」が48.7%、「近くに活動場所がある」が45.5%となっています。

- ・地域住民の有志の活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思うかについてみると、「参加したくない」が54.0%と割合が最も高く、次いで「参加してもよい」が29.9%、「既に参加している」が4.7%となっています。
- ・どのような条件が合えば参加したいかについてみると、「活動内容が自分に合う」が73.1%と割合が最も高く、次いで「時間が合う」が51.2%、「近くに活動場所がある」が48.0%となっています。
- ・地域の中で活かせると思う得意なことについてみると、「話し相手」が16.9%と割合が最も高く、次いで「掃除」が10.8%、「麻雀」が9.3%となっています。

→地域活動への参加意欲を持つ方は多く、実際の活動参加につながる仕組みづくりが課題です。

## 7. たすけあいについて (P63~)

- ・心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が57.9%と割合が最も高く、次いで「友人」が39.4%、「別居の子ども」が34.2%となっています。
- ・心配事や愚痴を聞いてあげる人についてみると、「配偶者」が56.5%と割合が最も高く、次いで「友人」が40.0%、「別居の子ども」が32.8%となっています。
- ・病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人についてみると、「配偶者」が64.0%と割合が最も高く、次いで「別居の子ども」が30.5%、「同居の子ども」が25.1%となっています。
- ・病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてあげる人についてみると、「配偶者」が62.6%と割合が最も高く、次いで「別居の子ども」が28.1%、「同居の子ども」が20.7%となっています。
- ・家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手についてみると、「そのような人はいない」が38.8%と割合が最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が19.4%、「地域包括支援センター・役所・役場」が16.7%となっています。
- ・友人・知人と会う頻度についてみると、「月に何度かある」が27.1%と割合が最も高く、次いで「週に何度かある」が26.5%、「年に何度かある」が19.9%となっています。
- ・この1か月間に会った友人・知人の数についてみると、「10人以上」が24.0%と割合が最も高く、次いで「3~5人」が23.2%、「1~2人」が21.0%となっています。
- ・よく会う友人・知人との関係についてみると、「近所・同じ地域の人」が41.0%と割合が最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が34.9%、「仕事での同僚・元同僚」が32.8%となっています。

→相談相手や交流相手がほとんどいない人も少なくなく、日常的な相談・見守り・支え合いの仕組みの充実が課題です。

- ・住み慣れた地域での生活を維持していく為に、住民同士の「たすけあい」「ささえあい」は必要であると思うかについてみると、「必要である」が78.1%、「必要でない」が2.3%、「わからない」が14.5%となっています。
- ・住民同士の「たすけあい」「ささえあい」について、どの立場で関わりたいかについてみると、「助ける側になりたい」が20.9%、「助けを受ける側になりたい」が5.8%、「助ける側と助けを受ける側の両方を希望」が70.3%となっています。

- 地域の中で、生活支援の担い手として活動したいと思うかについてみると、「活動してもよい」が42.8%と割合が最も高く、次いで「活動したくない」が39.4%、「既に活動している」が3.6%となっています。
- 生活支援を行うとしたら、どのようなことができると思うかについてみると、「ゴミ出し」が55.4%と割合が最も高く、次いで「話し相手」が39.4%、「買物」が37.3%となっています。
- どのような条件が合えば活動したいかについてみると、「歩いて行ける範囲である」が51.6%と割合が最も高く、次いで「軽易な活動である」が49.3%、「自分の得意な内容である」が35.5%となっています。
- 現在誰かに手伝ってほしいことや、将来的に手伝いが必要になりそうなことについてみると、「買物」が22.4%と割合が最も高く、次いで「送迎」が19.3%、「家の中の補修」が15.4%となっています。

→日常生活の中で、自分ができそうなことを気軽にできる仕組みづくりが課題です。

## 8. 健康について (P77~)

- 現在の健康状態についてみると、「まあよい」が65.5%と割合が最も高く、次いで「あまりよくない」が14.4%、「とてもよい」が13.3%となっています。
- 現在の幸せの程度についてみると、「8点」が22.8%と割合が最も高く、次いで「5点」が15.8%、「7点」が15.3%となっています。
- この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについてみると、「はい」が33.3%、「いいえ」が58.8%となっています。
- この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかについてみると、「はい」が22.0%、「いいえ」が69.1%となっています。

→身体機能の低下や興味関心の低下は、外出を控える原因となり、自信の喪失等にもつながることから、運動機能の維持や気軽に楽しく関われる取り組みの充実が課題です。

- 喫煙の状況についてみると、「もともと吸っていない」が52.6%と割合が最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が31.8%、「ほぼ毎日吸っている」が7.5%となっています。

→男性で喫煙の割合が高く、禁煙に向けた啓発の充実が課題です。

- 現在治療中、または後遺症のある病気についてみると、「高血圧」が39.6%と割合が最も高く、次いで「目の病気」が19.7%、「高脂血症（脂質異常）」が15.1%となっています。
- 健康診断を受けているかについてみると、「年に1回は受診している」が51.2%と割合が最も高く、次いで「持病があるので健診は受けず、通院している」が26.7%、「毎年ではないが受診している」が10.4%となっています。
- かかりつけの病院（医院）の有無についてみると、「ある」が82.4%、「ない」が10.7%となっています。
- 健康状態の維持・増進のために、気を付けていることや取り組んでいることについてみると、「栄養バ

ランスの良い食事を心掛ける」が60.6%と割合が最も高く、次いで「運動をする」が56.9%、「睡眠をしっかりとる」が52.8%となっています。

→かかりつけ医等の普及や健康維持・増進の取り組みは進んでいますが、一層の普及に向けて、情報提供や啓発活動が必要です。

## 9. 認知症にかかる相談窓口の把握について (P87~)

- ・認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかについてみると、「はい」が7.9%、「いいえ」が83.9%となっています。
- ・認知症に関する相談窓口を知っているかについてみると、「はい」が21.3%、「いいえ」が70.2%となっています。

→認知症の相談窓口の周知など、相談支援体制の充実が課題です。

## 10. 市の高齢者福祉施策について (P89~)

- ・(1) いんざい健康ちょきん運動に関する認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」が24.0%と割合が最も高く、次いで「分からない」が23.9%、「聞いたことがない」が23.8%となっています。
- ・(2) 介護支援ボランティア制度に関する認知度についてみると、「分からない」が33.7%と割合が最も高く、次いで「聞いたことがない」が27.7%、「言葉だけ聞いたことがある」が22.0%となっています。
- ・(3) 地域包括支援センターに関する認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」が33.2%と割合が最も高く、次いで「分からない」が21.3%、「内容まで知っている」が18.2%となっています。
- ・(4) 認知症カフェ（オレンジカフェ）に関する認知度についてみると、「聞いたことがない」「分からない」がそれぞれ31.0%と割合が最も高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」が20.6%となっています。
- ・(5) 成年後見制度に関する認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」が38.0%と割合が最も高く、次いで「分からない」が21.9%、「内容まで知っている」が16.4%となっています。

→地域包括支援センターなど、認知されているものもありますが、一層の周知が必要です。

- ・「いんざい健康ちょきん運動」に参加してみたいと思うかについてみると、「参加したくない」が46.5%と割合が最も高く、次いで「参加してもよい」が31.3%、「既に参加している」が7.7%となっています。

→「いんざい健康ちょきん運動」の一層の参加促進に向けた取り組みが必要です。



## 今、あなたの当てはまる状態

- ・(1) 一週間の生活リズムができていくかについてみると、「当てはまる」が39.0%と割合が最も高く、次いで「やや当てはまる」が28.9%、「どちらでもない」が8.5%となっています。
- ・(2) 一日の生活リズムができていくかについてみると、「当てはまる」が39.5%と割合が最も高く、次いで「やや当てはまる」が29.6%、「どちらでもない」が7.8%となっています。
- ・(3) 家庭での役割があるかについてみると、「当てはまる」が45.6%と割合が最も高く、次いで「やや当てはまる」が21.0%、「どちらでもない」が8.0%となっています。
- ・(4) 外出をすることがあるかについてみると、「当てはまる」が53.7%と割合が最も高く、次いで「やや当てはまる」が17.8%、「どちらでもない」が4.4%となっています。
- ・(5) 人との交流があるかについてみると、「当てはまる」が41.7%と割合が最も高く、次いで「やや当てはまる」が19.7%、「どちらでもない」が8.1%となっています。
- ・(6) バスや電車等を利用できるかについてみると、「当てはまる」が56.4%と割合が最も高く、次いで「やや当てはまる」が11.9%、「当てはまらない」が8.7%となっています。
- ・(7) 気持ちが明るいかについてみると、「当てはまる」が28.6%と割合が最も高く、次いで「やや当てはまる」が27.9%、「どちらでもない」が20.3%となっています。
- ・(8) 物事に積極的に取り組めるかについてみると、「やや当てはまる」が27.2%と割合が最も高く、次いで「当てはまる」が23.3%、「どちらでもない」が21.6%となっています。
- ・(9) 人と会話する機会があるかについてみると、「当てはまる」が36.9%と割合が最も高く、次いで「やや当てはまる」が26.0%、「どちらでもない」が10.1%となっています。
- ・(10) 不安や悩みがないかについてみると、「どちらでもない」が26.3%と割合が最も高く、次いで「やや当てはまる」が25.4%、「当てはまる」が13.3%となっています。
- ・(11) 健康に自信があるかについてみると、「やや当てはまる」が26.6%と割合が最も高く、次いで「どちらでもない」が25.4%、「当てはまる」が12.5%となっています。

→ 「いんざい健康ちょきん運動」の参加者に対しても、上記の事項をうかがっています。今後も、市民の健康状態等をモニタリングしながら、市で推進する「いんざい健康ちょきん運動」の効果検証を進めていくことが必要です。

## 11. 生活機能のリスクについて (P106～)

### 1 運動機能のリスク

- ・からだを動かすことについて、「階段を手すりや壁をつたわずに昇れない」「椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がれない」、「15分位続けて歩けない」、「過去1年間に転んだ経験がある」、「転倒に対する不安は大きい」のうち3つ以上該当する方を、「運動機能リスク者」とした場合、全体の14.9%が該当しています。

### 2 転倒のリスク

- ・過去1年間の転んだ経験について、「何度も転倒したことがある」または「1度転倒したことがある」の方を「転倒リスク者」とした場合、全体の29.6%が該当しています。

### 3 閉じこもりのリスク

- ・週に1回以上外出しているかについて、「ほとんど外出しない」または「週1回」の方を「閉じこもりリスク者」とした場合、全体の16.2%が該当しています。

### 4 低栄養のリスク

- ・BMIが18.5未満かつ「6か月間で2～3kg以上の体重減少があった」方を「低栄養リスク者」とした場合、全体の1.6%が該当しています。

### 5 口腔機能低下のリスク

- ・食べることにについて、「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」「お茶や汁物等でむせることがある」「口の渇きが気になる」の3つのうち2つ以上該当する方を「口腔機能低下リスク者」とした場合、全体の7.0%が該当しています。

### 6 認知機能低下のリスク

毎日の生活について、「物忘れが多いと感じる」の方を「認知機能低下リスク者」とした場合、全体の42.7%が該当しています。

### 7 手段的日常生活動作（IADL）低下のリスク

- ・毎日の生活について、「バスや電車を使って1人で外出しているか」「自分で食品・日用品の買物をしているか」「自分で食事の用意をしているか」「自分で請求書の支払いをしているか」「自分で預貯金の出し入れをしているか」の項目で、「できるし、している」または「できるけどしていない」が合計3つ以下の方を「手段的日常生活動作（IADL）低下リスク者」とした場合、全体の7.0%が該当しています。

### 8 うつ傾向のリスク

- ・健康について、「この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあった」または「この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあった」のいずれか、または両方が当てはまる方を「うつ傾向リスク者」とした場合、全体の36.0%が該当しています。

### 9 いんざい健康ちょきん運動への参加状況

- ・いんざい健康ちょきん運動への参加状況について、「既に参加している」が7.7%、「参加していない」が79.9%となっています。

→「転倒」で約3割、「運動機能」「閉じこもり」で1割半ばがリスク者となっており、生活機能の維持・改善に向けた包括的な取り組みの推進が課題です。

## Ⅱ 在宅介護実態調査結果

### A票 要介護の認定を受けている方について (P116～)

- ・性別についてみると、「男性」が30.4%、「女性」が69.6%となっています。
- ・年齢についてみると、「90歳以上」が32.8%と割合が最も高く、次いで「85～89歳」が26.4%、「80～84歳」が19.3%となっています。
- ・居住地区についてみると、「南部」が29.9%と割合が最も高く、次いで「北部」が27.7%、「印旛」が19.6%となっています。
- ・要介護度についてみると、「要介護1」が28.6%と割合が最も高く、次いで「要介護2」が25.6%、「要介護3」が19.3%となっています。
- ・世帯類型についてみると、「単身世帯」が18.1%、「夫婦のみ世帯」が24.4%、「その他」が56.5%となっています。
- ・住まいの形態についてみると、「サービス付き高齢者向け住宅」が3.4%、「住宅型有料老人ホーム」が6.6%、「いずれでもない」が83.8%となっています。

→介護を必要としながら、単身、あるいは夫婦のみで暮らす方の割合が約半数となっており、在宅生活の継続に向けた多様な支援の必要性がうかがえます。

- ・家族や親族からの介護の頻度についてみると、「ほぼ毎日ある」が51.8%と割合が最も高く、次いで「ない」が18.8%、「週に1～2日ある」が8.7%となっています。
- ・主な介護者についてみると、「子」が51.9%と割合が最も高く、次いで「配偶者」が32.1%、「子の配偶者」が10.9%となっています。
- ・主な介護者の性別についてみると、「男性」が27.8%、「女性」が68.4%となっています。
- ・主な介護者の年齢についてみると、「60代」が37.6%と割合が最も高く、次いで「70代」が20.5%、「50代」が18.7%となっています。
- ・主な介護者の健康状態についてみると、「まあよい」が60.1%と割合が最も高く、次いで「あまりよくない」が20.9%、「とてもよい」が11.8%となっています。
- ・主な介護者が行っている介護等についてみると、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が79.3%と割合が最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が79.1%、「食事の準備（調理等）」が76.4%となっています。

→在宅の主な介護者は、女性、高齢の方の割合が高いことから、介護者支援の充実が課題です。

- ・現在利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについてみると、「利用していない」が50.8%と割合が最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が13.8%、「掃除・洗濯」が12.3%となっています。
- ・今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについてみると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が31.6%と割合が最も高く、次いで「特になし」が29.4%、「外出同行（通院、買い物など）」

が22.0%となっています。

→今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスとして、移動や外出に係る支援へのニーズが高くなっています。

- ・現時点での、施設等への入所・入居の検討状況についてみると、「入所・入居は検討していない」が46.4%と割合が最も高く、次いで「すでに入所・入居申し込みをしている」が26.1%、「入所・入居を検討している」が17.8%となっています。

→施設等への入居を希望しながら、在宅生活を送る方も少なくありません。

- ・調査対象者が、現在抱えている傷病についてみると、「認知症」が45.1%と割合が最も高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が28.0%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が17.0%となっています。

→認知症をとまなう在宅生活者が今後も増加することが見込まれることから、認知症への理解促進と、認知症の方やその家族を支える仕組みづくりの充実が課題です。

- ・調査対象者の訪問診療利用についてみると、「利用している」が14.7%、「利用していない」が78.6%となっています。
- ・住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスの利用状況についてみると、「利用している」が62.5%、「利用していない」が29.1%となっています。

→医療と介護の連携や住環境の整備など、在宅で暮らしを続けられるような体制作りが課題です。

- ・A. 訪問介護（ホームヘルプサービス）の利用状況についてみると、「利用していない」が26.7%で割合が最も高く、次いで「週1回程度」が3.9%、「週2回程度」が3.6%となっています。
- ・B. 訪問入浴介護の利用状況についてみると、「利用していない」が29.3%で割合が最も高く、次いで「週2回程度」が3.4%、「週1回程度」が2.3%となっています。
- ・C. 訪問看護の利用状況についてみると、「利用していない」が26.2%で割合が最も高く、次いで「週2回程度」が4.4%、「週1回程度」が3.9%となっています。
- ・D. 訪問リハビリテーションの利用状況についてみると、「利用していない」が26.7%で割合が最も高く、次いで「週1回程度」が6.5%、「週2回程度」が5.4%となっています。
- ・E. 通所介護（デイサービス）の利用状況についてみると、「週2回程度」が18.9%で割合が最も高く、次いで「週3回程度」が15.0%、「利用していない」が13.2%となっています。
- ・F. 通所リハビリテーション（デイケア）の利用状況についてみると、「利用していない」が23.6%で割合が最も高く、次いで「週2回程度」が8.0%、「週1回程度」が5.7%となっています。
- ・G. 夜間対応型訪問介護の利用状況についてみると、「利用していない」が31.3%で割合が最も高く、次いで「週1回程度」「週5回以上」がそれぞれ0.3%となっています。
- ・H. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の利用状況についてみると、「利用していない」が70.7%、「利用した」が3.9%となっています。
- ・I. 小規模多機能型居宅介護の利用状況についてみると、「利用していない」が68.4%、「利用した」

が3.9%となっています。

- J. 看護小規模多機能型居宅介護の利用状況についてみると、「利用していない」が69.7%、「利用した」が1.3%となっています。
- K. ショートステイの利用状況についてみると、「利用していない」が57.8%で割合が最も高く、次いで「月1～7日程度」が15.5%、「月8～14日程度」が3.9%となっています。
- L. 居宅療養管理指導の利用状況についてみると、「利用していない」が5.7%で割合が最も高く、次いで「月1回程度」が1.8%、「月3回程度」が0.5%となっています。
- 介護保険サービスを利用していない理由についてみると、「本人にサービス利用の希望がない」が9.4%と割合が最も高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が7.2%、「以前、利用していたサービスに不満があった」が4.4%となっています。

→現状、利用の少ないサービスも見られますが、在宅生活を支えるために必要なサービスの充実を進めていくことが課題です。

### 現在、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを「利用していない」方の、今後の利用希望の有無

- A. 訪問介護（ホームヘルプサービス）の今後の利用希望の有無についてみると、「今後利用を希望する」が15.6%、「今後利用を希望しない」が33.9%となっています。
- B. 訪問入浴介護の今後の利用希望の有無についてみると、「今後利用を希望する」が12.2%、「今後利用を希望しない」が36.1%となっています。
- C. 訪問看護の今後の利用希望の有無についてみると、「今後利用を希望する」が12.8%、「今後利用を希望しない」が36.1%となっています。
- D. 訪問リハビリテーションの今後の利用希望の有無についてみると、「今後利用を希望する」が16.7%、「今後利用を希望しない」が33.3%となっています。
- E. 通所介護（デイサービス）の今後の利用希望の有無についてみると、「今後利用を希望する」が26.1%、「今後利用を希望しない」が26.7%となっています。
- F. 通所リハビリテーション（デイケア）の今後の利用希望の有無についてみると、「今後利用を希望する」が21.7%、「今後利用を希望しない」が28.9%となっています。
- G. 夜間対応型訪問介護の今後の利用希望の有無についてみると、「今後利用を希望する」が9.4%、「今後利用を希望しない」が37.8%となっています。
- H. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の今後の利用希望の有無についてみると、「今後利用を希望する」が10.6%、「今後利用を希望しない」が37.2%となっています。
- I. 小規模多機能型居宅介護の今後の利用希望の有無についてみると、「今後利用を希望する」が11.1%、「今後利用を希望しない」が35.6%となっています。
- J. 看護小規模多機能型居宅介護の今後の利用希望の有無についてみると、「今後利用を希望する」が11.7%、「今後利用を希望しない」が34.4%となっています。
- K. ショートステイの今後の利用希望の有無についてみると、「今後利用を希望する」が26.1%、「今後利用を希望しない」が27.2%となっています。

- ・L. 居宅療養管理指導の今後の利用希望の有無についてみると、「今後利用を希望する」が13.3%、「今後利用を希望しない」が36.1%となっています。

→「通所介護（デイサービス）」「通所リハビリテーション（デイケア）」「ショートステイ」などで、潜在的な利用意向が高くなっています。

## B票 主な介護者の方について (P162～)

- ・家族や親族の中で、調査対象者の介護を主な理由として、過去1年間に仕事を辞めたことがあるかについてみると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が55.7%と割合が最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が11.4%、「主な介護者が転職した」が2.7%となっています。

→家族の介護を主な理由として、仕事を辞めたり、転職を経験した割合も少なくありません。仕事と介護の両立に向けた取組の強化が課題です。

- ・主な介護者の現在の勤務形態についてみると、「働いていない」が52.3%と割合が最も高く、次いで「パートタイムで働いている」が19.8%、「フルタイムで働いている」が17.4%となっています。
- ・主な介護者が、介護をするにあたって働き方の調整等をしているかについてみると、「2. 介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が34.1%と割合が最も高く、次いで「特に行っていない」が31.7%、「3. 介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が26.9%となっています。
- ・仕事と介護の両立に効果的な勤め先からの支援についてみると、「制度を利用しやすい職場づくり」が29.9%と割合が最も高く、次いで「介護をしている従業員への経済的な支援」が26.3%、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が25.7%となっています。

→長期にわたる介護を持続できるよう、就業先の理解の促進が課題です。

- ・主な介護者が、今後も働きながら介護を継続できそうかについてみると、「問題はあるが、何とか続けていける」が54.5%と割合が最も高く、次いで「問題なく、続けていける」が18.6%、「続けていくのは、やや難しい」が9.0%となっています。
- ・現在の生活の継続にあたって、主な介護者が不安に感じる介護等についてみると、「認知症状への対応」が39.6%と割合が最も高く、次いで「夜間の排泄」が35.6%、「外出の付き添い、送迎等」が31.2%となっています。

→「認知症状への対応」、「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」などが上位に挙がっており、高齢化が進む介護者への負担軽減に向けた取り組みが大きな課題です。